



鳥瞰図とは、空を飛ぶ鳥の目から見たように、町並みや山などを立体的に描いたものです。

鳥瞰図絵師として有名な吉田初三郎（1884～1955）は、大正期から来道し、道内市町村等、各地の鳥瞰図を多数作製していますが、上記鳥瞰図（「大沼道立公園七飯村鳥瞰図」）もその一枚。

大正期の新日本三景の一つとなった大沼道立公園全景を描いたもので、勇姿聳える駒ヶ岳を背景に、七飯や大沼の町並みのほか、珍しい空中観覧車などが見えます。

当館ホームページ「北方資料デジタル・ライブラリー」では、北方資料室所蔵の鳥瞰図 100 点余りをデジタル画像でご紹介していきますが、鳥瞰図によっては、吉田初三郎自身による解説「絵に添えて一筆」も加えております。

目 次

<寄稿>本の森厚岸情報館長 伊藤信彦氏	1
平成 22 年度事業報告（平成 22 年 7 月以降）	
第 52 回北海道図書館大会	2～3
全道図書館研究集会	4
全道図書館中堅職員研修会	5
道民カレッジ連携講座（北海道医療大学連携講座含む）	6
北方資料室 40 周年、講演会など記念事業を実施	7～8
かるちやる net「イオン子ども歴史文化教室」	9
図書館海援隊・法情報コンシェルジュ養成講座	10
平成 22 年度全国優良読書グループ表彰・優良読書グループ北海道表彰	11
平成 22 年度北海道立図書館協議会	12
<資料紹介>「赤とんぼ」、「かがくのとも」復刻版	13
平成 23 年度事業予定一覧表	14
平成 23 年度展示予定一覧表	15
掲示板	16

アクションがなければリアクションはない

本の森厚岸情報館長 伊藤信彦

今回、道職員及び市町村職員の経験をもとに、道内の図書館活動の振興に係る具体的な方策について、提言の依頼を受けました。

ポイントとなるのは、図書館サービスがどのような効果を発揮しているかについて、わかりやすく住民の方にイメージしてもらおうということではないでしょうか。

北海道ブランドとしての「食」と「観光」で攻めるとか、いま話題のエゾシカとか、自治体の持つ地域課題に対し、政策的な絡みで資料展示を打っていくなど、やり方はいろいろあると思います。自館資料だけでは足りない場合、道立図書館から借用して、どんどん展示をしていきましょう。

また、厚岸で過ごした3年間を振り返って、他市町村でも活用できるかもしれない事例について、3点ほど紹介させていただきます。

1 高齢者を対象としたサービス

特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、グループホームを図書館バスで巡回して、笑って楽しめるDVD、大活字本の小説、画集・写真集などを中心にご利用いただいています。このほか社会福祉協議会の事業に協力し、ダンスや脳トレ・音読の要素を取り入れた読み聞かせや、パソコンを使った絵葉書づくりなども体験していただいています。

また、町内の読み聞かせサークルのみなさんが、高齢者施設において紙芝居の上演や手遊びなどの活動を行なっています。

2 まちの観光案内サービス

駅のそばで、名前が情報館ですから、観光シーズンにはいろいろな質問が寄せられます。まちの特産品を味わったり買ったりできるお店はどこか、銭湯への行き方は、昼飯に食べるとしたら何がおすすめか、などなど、観光マップや飲食店マップをカウンターに広げて、町外からの来館者に説明するのは楽しいものです。いまが旬の食材は何かといった事前のチェックも欠かせません。

3 健康と食べ物コーナー

医食同源という言葉がありますが、どちらも非常に関心の高いテーマです。厚岸情報館では医学・健康・食文化・料理の本を連続したコーナーに並べて、来館者の方にご利用いただいています。私事ですが、このコーナーの本と厚岸のすばらしい環境のおかげで、健康診断以外は一度も病院のお世話になることなく、3年間を過ごすことができました。

ブックスタートや読み聞かせなど、子どもに対するサービスは、多くの市町村で行なわれていると思いますが、上記の内容が少しでも参考になれば幸いです。

第 52 回北海道図書館大会 テーマ「国民読書年—今こそ図書館はカー—」

期 日：平成 22 年 9 月 9 日(木)～10 日(金)

場 所：北海学園大学 7 号館

参加人数：166 名（公共 78 名、大学・短大 31 名、学校 24 名、専門 11 名、一般 22 名）

日 程：9 日 13:00-開会式 13:20-基調講演 15:15-分科会（第 1～4）

10 日 9:20-分科会（第 5～8）11:25-特別講演 12:45-閉会式

平成 22 年の国民読書年にちなみ、読書活動の推進を図るために図書館が果たす役割について学ぶとともに、分科会のテーマを広げることで、参加者間の情報発信や交流を図ることができました。また、特別講演として函館市在住の時代小説作家・宇江佐真理さんをお招きし、一般参加者も加わったことで、読書意欲の向上に高い評価を得た大会となりました。

今回、初めて大学図書館を開催場所としましたが、交通の便が良く設備も整っているということで、大変好評を得ました。

<基調講演> 「いま本と読者はどうなっているのか —電子書籍時代の本と読者と図書館—」

講師 永江 朗 氏（ライター／早稲田大学文化構想学部教授）



「電子書籍元年」と言われる 2010 年。本と読者、図書館と図書館員はこれからどうなっていくのかをテーマに、出版の歴史や出版界の趨勢を交えつつ、これからの読書、出版、図書館についてご講演いただきました。「図書館にとっては、今までの常識を書き換えていかなければならない。新しい図書館に向かって想像力を伸ばしていかなければならない。」と言われていたことが印象的で、大変啓発される内容でした。

<分科会> ○第 1 分科会「アイデアがたくさん、まちの図書館を変える～いまどきの図書館事情～」 発表者：市立富良野図書館長 近内栄一氏 コーディネーター：北海道立図書館北方資料部長 鈴木浩一 ○第 2 分科会「学術情報発信の現状について」 司会：札幌医科大学附属総合情報センター主任司書 今野穂氏 ○第 3 分科会「北米学校図書館の視察報告」 発表者：苫小牧市立泉野小学校教諭 鈴木祐亮氏 司会者：札幌市立発寒中学校司書教諭 佐藤敬子氏 ○第 4 分科会「絵本の力～読み聞かせ」 発表者：絵本屋ぼこぺん店長 飛島詩子氏 司会者：北海道北広島西高等学校教諭 図師広光氏 ○第 5 分科会「地域資料の収

集と活用」 発表者：北海道立図書館 市町村支援課長 宮本浩 調査運用課長 加藤ひろみ
 ○第6分科会「学術情報リテラシー教育支援の実際について」 司会者：北海道大学附属図書館係長 平田栄夫氏
 ○第7分科会「ボランティアとの協働について」 発表者：北広島市図書館長 新谷良文氏 学校図書館ボランティア（江別市）高村敦子氏 北海道武蔵女子短期大学附属図書館司書 柳橋望氏 進行：北海道武蔵女子短期大学
 ○第8分科会「語りの魅力～その実際～ストーリーテリングの世界～」 発表者：札幌おはなしの会代表 平野美和子氏 司会者：札幌市立新琴似北中学校教諭 浅村麻姫子氏

<特別講演> 「函館で時代小説を書くということ」 講師 宇江佐 真理 氏（時代小説作家）



今年が国民読書年であることから、函館市在住の時代小説家・宇江佐真理さんの特別講演を行いました。大会参加者のほか、特別講演の参加者も募集し、約160名が道内作家の話に聞き入りました。

参加者からの感想には、「優しい語り口調で、とてもリラックスして聞けた」「小説家の生活が垣間見えて楽しく聞かせていただいた」など、講演の楽しさがつづられたもの

のや、「主婦から努力して作家になったということがとても刺激を受けた」「北海道ゆかりの作家の講演は良かった」「松前藩のお話も心がこもっていて参考になりました」など、これからの生活や読書、研究の弾みになったという国民読書年にふさわしい講演でした。

<特別展示> 小泉 るみ子さん『山のとしょかん』絵本原画展

会期中、絵本『山のとしょかん』（肥田美代子・文 文研出版 2010.4）の原画20点が展示され、多くの参加者が足を運びました。

なお、参加者からいただいたアンケートの集計結果は、次のとおりです。（回答率51.8%）

	基調	分1	分2	分3	分4	分5	分6	分7	分8	特講	特展
良かった	58	15	3	12	11	14	5	20	8	57	34
まあ良い	19	12	4	6	2	10	3	5	3	18	16
あまり良くなかった	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	0
良くなかった	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
無回答	2	1	2	0	0	1	1	0	0	10	36
計	81	29	9	18	14	25	11	25	12	86	86

（業務部業務課）

平成 22 年度 全道図書館研究集会
「子どもの心をはっきりつかむ！ブックトーク実践講座」

期 日：平成 22 年 9 月 30 日（木）～10 月 1 日（金）

会 場：札幌市中央図書館 3 階 講堂

参加人数：42 名

日 程：

【1 日目】13:00～開会式 13:15～「ブックトークとは -その意義と実際-」「実演と質疑応答」

【2 日目】9:30～グループ演習「テーマ研究と本の紹介」 11:50～閉会式

「子どもの心をはっきりつかむ！ブックトーク実践講座」と題して、公益財団法人東京子ども図書館から張替恵子（はりかえ けいこ）さんを講師にお迎えし開催しました。ブックトーク



の目的、テーマの決め方や本選び、シナリオ作りの留意点などを学ぶとともに、実演の見学、グループ演習でのシナリオ作成など実践につながる研修となりました。

昨年よりも参加総数は少なくなりましたが（昨年 56 名）、グループ演習の参加人数は同数となっています。テーマは今日的な課題だったようで、参加

者アンケートからも「初めて実演を見た」「実践に役立つ」との意見がありました。

なお、アンケート集計結果とグループ演習のまとめは、北海道立図書館ホームページより図書館ポータル（情報共有ファイルアンケート）にも掲載しています。

アンケート集計結果（回収率 76%）

	テーマ	講 座	グループ演習
良かった	29	27	17
まあ良い	3	4	7
あまり良くなかった	0	0	0
良くなかった	0	0	0
無回答	0	1	8
計	32	32	32

（業務部業務課）

平成 22 年度全道図書館中堅職員研修会

本研修では、「地域連携」をキーワードに、これからの図書館活動について考えました。

研修終了後のアンケートでは、「地元に戻ってからすぐ実践したい」「これからの図書館運営に役立てていきたい」など、意欲的な感想が目立ちました。また、「他の図書館と情報交換ができたのがよかった」など、集合研修ならではの利点をあげる参加者もいました。

参加者の満足度は高かったのですが、3日間全日程に参加できた方は約半数で、日程等、研修の持ち方に課題が残りました。23年度はその点を改善し、開催します。

期 日：平成 22 年 7 月 14 日（水）
～16 日（金）

会 場：北海道立図書館 研修室

参加人数：21 名

日 程：

【1 日目】

講義・演習「地域連携に図書館ポータルを活用する」 北海道立図書館業務課主査 桑原裕子

講 義「連携で広がる図書館の可能性」 岩見沢市立図書館図書係長 所美穂子氏

【2 日目】

講義・演習「利用のための資料保存」 北海道立図書館職員（市町村支援課主査 中田こずえ・

同主任 山本真紀・奉仕課主任 佐々木裕道・資料課主任 伊藤嘉奈子）

講 義「“地元学”によるまちづくり」 北海学園大学教授 内田和浩氏

【3 日目】

講 義「地域連携で広がる図書館からの情報発信 1～日高管内の事例から～」

町立様似図書館主幹 加藤宏二氏

講義・演習「地域連携で広がる図書館からの情報発信 2～PRの実践～」

北海道立図書館市町村支援課長 宮本浩

町立様似図書館主幹 加藤宏二氏



←3日目の講義風景より

（業務部市町村支援課）

道民カレッジ連携講座

当館では道民のまなびを支援するさまざまな講座を道民カレッジ連携講座として開催しています。今年度も図書館の活用法や情報講座など各種連携講座を開催しました。

■暮らしに役立つ図書館活用術

図書館の利用方法を基礎から学べる講座「暮らしに役立つ図書館活用術」を平成 22 年 6 月 3 日に基礎編、同 6 月 17 日に応用編を当館で開催しました。

基礎編では、本の並び方から図書館のさまざまなサービスを紹介、応用編では統計資料の調べ方をテーマに実際に資料を紹介して調べ方のコツを紹介しました。合わせて 23 名の方が参加されました。

■インターネット活用術

インターネットを利用して自宅で調べ物をされる利用者の方が増えています。「インターネット活用術」は実際にパソコン操作を行い、実習形式でネット情報の上手な活用法を学びます。今年度は、平成 22 年 12 月 1 日に「放送・映画編」、同 15 日に「雑誌・新聞編」を北海道立教育研究所附属情報処理教育センターで開催し、合わせて 21 名が参加されました。



「インターネット活用術」の様子

■北海道医療大学連携講座「健康に関する情報講座」

北海道立図書館では、医療や健康、福祉、介護といった昨今の道民の情報ニーズに対応するため、平成 19 年 5 月に当別町の北海道医療大学総合図書館と「相互協力に関する協定」を結び、専門的な情報サービスの提供に向けた取り組みを続けています。「わかりやすい健康に関する情報講座」は、当初から継続して実施している市民向け情報講座で、毎回テーマを取り上げて開催しています。

今年度の講座は、“がん”をテーマに昨年 10 月 28 日、北海道医療大学の札幌サテライトキャンパスを会場に、43 名の参加者を得て開催しました。

前半は「がんをいかに予防するか？」と題して、北海道医療大学の小林正伸教授による講演が行われ、外国人と日本人の食生活の違いや最新の統計によるがんの罹患状況の実例から、“がん”になりにくい食生活の重要性など、さまざまな留意点がユーモアを交えて話されました。



「健康に関する情報講座」の様子

後半は「健康情報を入手するための図書館活用術」と題して、北海道医療大学総合図書館職員からネットを利用した地域住民による情報入手の現状報告があり、北海道立図書館からは身近にある図書館の活用法や、信頼できるネット情報の選び方など、市民の立場での実用的な情報入手方法をわかりやすく説明しました。
(奉仕部参考調査課)

北方資料室 40 周年、講演会など記念事業を実施

北海道立図書館が札幌から江別へ移転した3年後の昭和45年、北海道、旧樺太、千島に係る資料を収集・整理・保存し、さまざまな調査・研究等の支援を一元的に担当する北方資料室が誕生しました。

発足当時は蔵書も2万冊余りでしたが、40周年の平成22年度には、23万冊を超え、貴重な古地図、古文書等も北方資料デジタル・ライブラリーで、自宅から閲覧できるようになりました。今年度は、40周年を迎えた北方資料室を、よりアピールするために数々の記念事業を実施しました。



「いまずく暮らしに役立つ北方資料入門講座」

初めての試みで5回連続講座を開催しました。講師は北方資料部員、7月1日の第1回「北方資料書庫ツアー」から、「はじめての北方資料活用術」、「簡単！便利！ネットの上手な調べ方のコツ」、「パソコンから広がる地図の世界」、「気になる疑問を解決！そのテクニック」の7月29日の第5回まで、北海道の歴史や文化を身近に、毎日の暮らしに役立つ情報の探し方、北方資料室の使い方等を実際の資料を使いながら講義と実習で行いました。



定員20名、5回通算72名の受講者からは、「北方資料室の業務がわかった」「ネットの検索方法がよくわかった」等の声が多く聞かれました。講座に併せて「暮らしに、仕事に、図書館を～こんなに使える！北方資料編～」として、資料展示会を開催したほか、これまでのレファレンス事例やお役立ち資料等を掲載した展示の葉（22p）を発行しました。

9月と11月には、「資料で語る北海道の歴史」として、講演会を開催しました。

9月4日は、北海道史研究協議会会員の出村文理氏に「**北海道の出版文化史—昭和時代を中心として—**」と題して、明治期の開拓使・道庁による

官庁出版物から大正、昭和の道内の出版状況について、ご講演いただきました。講演では、たくさんの図書や雑誌が紹介され、特に昭和20年代の北海道の出版ブームのお話等、40名を超える参加者から、「とても興味深かった」「戦前の出版物の流れがよくわかった」等、好評でした。



11月6日は、江別市情報図書館館長の佐々木孝一氏による「**絵葉書に写された北海道と江別**」と題した講演会を開催し、貴重な絵葉書を映しながら、その歴史や絵葉書から見た北海道・江

別の街の歴史について、ご講演いただきました。40名の参加者からは、「まったく知らない世界を教えてもらい、興味深かった」「古い絵葉書の見方が変わった」「地域の歴史が絵葉書に秘められていることがわかった」等、こちらもとても好評でした。会場には、それぞれ当館所蔵の資料によるミニ展示コーナーを設け、講演の合間に手に取る方も多数いらっしゃいました。



そして、2月には「**竹鶴政孝と北海道～日本にウイスキーを伝えた男の愛と情熱の物語～**」

として、ニッカウイスキーの創業者、竹鶴政孝の生涯について、アサヒビール(株)の協力を得て、資料展示会と記念講演会を開催しました。ウイスキーアンバサダー蓑輪陽一郎氏による講演会では、定員を大きく上回る応募があり、急遽、翌週にDVD「竹鶴政孝物語」の上映会を開催し、講演会と上映会併せて87名の参加者となりました。さらに、資料展示会は、当館で所蔵する資料の他に、アサヒビール(株)からお借りした北海道に蒸溜所の適地を調査したノートや70年前のウイスキー、ピート等も展示しました。



最後に、記念事業の総まとめとして、3月末に40年を振り返る『**北の資料**』40周年記念号の発行の準備を進めています。北方資料室を支えてきた方々のエッセイや40年の記録等盛りだくさんの内容となる予定です。
(北方資料部)

かるちやる net 「イオン子ども歴史文化教室」開催 “かんたん豆本づくりと楽しい読み聞かせ”

期 日：平成22年10月16日（土）10:30-11:30

会 場：イオン札幌平岡ショッピングセンター（イオンホール）

参加人数：14名（大人8名、子供6名）

「かるちやる net」は、道とイオン北海道㈱との包括連携協定に基づき、新札幌や江別市に所在する教育・文化施設で構成された協議会です。今年度2月に第1回の会合が開かれ、イオンの店舗を利用した連携事業を企画・実施しました。

「イオン子ども歴史文化教室」はその事業の一つで、火起こし体験や伝統遊具作りなどの様々な体験学習を通して、小中学生やその親世代が北海道の歴史を学び、教育・文化施設を活用する機会として、加盟施設が月替わりで担当しました。

当館も「かるちやる net」の一員として、「豆本づくりの工作と楽しい読み聞かせ」を行いました。参加者は募集定員（30名）には満たない人数でしたが、親子ともに豆本にチャレンジし、色とりどりの表紙を迷いながら選んでいました。読み聞かせでは、暗闇で光るブラックライト・パネルシアターなど初めてみる方も多く、楽しんで参加していただきました。

なお、「かるちやる net」に加盟している施設は、札幌市青少年科学館、サンピアザ水族館、北海道開拓の村、道立自然ふれあい交流館、道立自然野幌森林公園、北海道開拓記念館、道立埋蔵文化財センター、道立図書館、道立教育研究所、江別市セラミックアートセンター、江別市郷土資料館の11施設です。また、その他の事業として、4・7・10月に「文化施設紹介展」を行いました。
(業務部業務課)



図書館海援隊・法情報コンシェルジュ養成講座

■ 図書館海援隊 — 法テラス札幌、札幌市中央図書館との連携

図書館海援隊（平成 22 年 1 月発足時から参加）の活動において、4 月から法テラス札幌との連携を開始し、パンフレットの配布等を行ってきましたが、新たな試みとして「暮らしに役立つ法制度セミナー 司法制度改革と図書館」を 11 月 20 日（土）札幌市中央図書館講堂において開催しました。

法テラスは、国によって設立された法的トラブル解決のための「総合案内所」。借金、離婚、相続…といった法的トラブルを抱え、「だれに相談すればいいの?」、「どんな解決方法があるの?」と悩んだとき、事情に応じた相談窓口を紹介するばかりではなく、経済的に余裕がない方には弁護士費用等の立て替えも行うなど、問題解決の道案内をしてくれます。

この「司法分野におけるセーフティネット」である法テラスの活用方法や、自分で情報収集する際に身近な公立図書館の蔵書が役立つことを広く知っていただこうと、法テラス札幌、札幌市中央図書館と当館の三者により道民カレッジ連携講座として企画しました。

プログラムは、「法テラス開設の背景とその役割」（講師：法テラス札幌事務局長）、「公立図書館には暮らしのヒントが満載」（講師：当館職員）の講演 2 本で、札幌市中央図書館では開催に先立ち 11 月 14 日から 28 日まで資料展示「暮らしに役立つ法律情報の見つけ方」を開催、併せて同館が作成したパスファインダーを配布しました。参加者は 43 名で、講師に質問するなど熱心に受講していました。

■ 法情報コンシェルジュ養成講座

本講座は、ローライブラリアン研究会が図書館振興財団の助成により行うプログラムで、図書館員向けの法情報研修の実施と講師派遣を行い、法律関係資料に「強い」図書館員＝「法情報コンシェルジュ」の育成を目指すものです。協力機関（開催図書館）の募集に対して、当館は札幌市中央図書館と共同で応募し、埼玉県浦和図書館、東京都立中央図書館、大阪府立図書館、兵庫県立図書館、鳥取県立図書館とともに実施されることになりました。

講座は、札幌市中央図書館を会場に平成 23 年 1 月 26～27 日に実施し、公立図書館を中心に大学図書館などから 112 名が受講しました。

2 日間にわたり、同研究会メンバーで杏林大学総合政策学部の岩隈道洋准教授が、法律の基礎から法情報総合サイトの検索まで体系的に講義され、受講者は明日からすぐに業務に役立てようと熱心にメモをとっていました。



(奉仕部参考調査課)

平成22年度全国優良読書グループ表彰・優良読書グループ北海道表彰

北海道読書推進運動協議会

(社)読書推進運動協議会では、「読書週間」事業のひとつとして、全国優良読書グループ表彰を実施しています。それに合わせ、当会でも独自に北海道表彰を行っています。

全国表彰 苫小牧子どもの本の会 苫小牧市 昭和60年設立

旧苫小牧市立図書館児童室にて結成され、読みきかせ、市立図書館主催行事への参加協力、児童文学の学習会など、地域の読書普及活動に積極的に取り組み、苫小牧市の児童文学研究の草分け的存在となっています。

北海道表彰

○滝川第三小学校図書ボランティア 滝川市 平成12年設立

学校からの呼びかけにより発足し、学校図書館の環境整備や市立図書館の事業への協力をしています。

○日曜おはなし会しゃぼんだま 千歳市 昭和63年設立

市立図書館主催の読み聞かせ講座受講生により結成し、読み聞かせを行い、育児相談会場で図書館活動や図書館まつりなど図書館への協力を精力的に行っています。

○読み聞かせボランティア 「ひだまりの会」 壮瞥町 平成11年設立

小学校や児童福祉施設、高齢者福祉施設で読み聞かせを定期的に行っています。また図書フェスティバルへの運営協力もしています。

○新婦人福島支部よみきかせの会 福島町 平成14年設立

学校週5日制への移行をきっかけに、子どもたちに絵本の楽しさを伝えたい、という思いで設立し、定期的な読みきかせの他、研修会に参加するなど、技術の向上を目指しています。

○遠別町読み聞かせボランティア ぐう・ちょき・ぱあ 遠別町 平成18年設立

文科省の補助事業により、ボランティアを養成したことをきっかけに発足し、学校図書館の環境整備や小学校、児童福祉施設で読み聞かせを行っています。

北海道地域活動振興協会理事長賞

○わからない図書館友の会 稚内市 平成15年設立

新図書館の開館をきっかけに、地域の町おこしグループが中心になって発足し、図書館を会場とする事業の企画・運営や図書館の環境整備など多彩な活動を行っています。

○いろりの会 美幌町 平成14年設立

町立図書館50周年を記念して設立し、図書館フェスティバル実行委員会に参加し、読み聞かせ活動を行い、研修会に参加するなど、技術の向上を目指しています。

○「音更町図書館」すずらんの会 音更町 平成11年設立

図書館内の環境整備、本の整理・修理やブックスタート、子ども図書館まつりの企画・運営などの図書館事業の協力を行っています。

○おはなしを楽しむ会おひさま 更別村 平成16年設立

村外で読書グループ活動を経験した人が中心となって結成し、小学校や幼稚園、高齢者福祉施設での読みきかせ、農村環境改善センター図書室の移動図書館事業に協力しています。

平成 22 年度北海道立図書館協議会

今年度の協議会は、次のとおり開催しました。

- ・ 第 1 回 平成 22 年 7 月 1 日（木）北海道立図書館会議室
 - 議題 (1) 平成 21 年度業務実績について
 - (2) 平成 22 年度業務の取組について
 - (3) 公共施設評価の検討状況について
 - (4) その他
- ・ 第 2 回 平成 22 年 11 月 30 日（火）北海道立図書館会議室
 - 議題 (1) 会長及び副会長の選出について
 - (2) 平成 22 年度の活動状況について
 - (3) 北海道立図書館事業推進計画について
 - (4) 公共施設評価の検討状況について
 - (5) その他
- ・ 第 3 回 平成 22 年 3 月 18 日（金）北海道立図書館会議室
 - 報告 (1) 地域活性化交付金（住民生活に光をそそぐ交付金）について
 - (2) 平成 23 年度予算について
 - (3) 平成 23 年度組織機構について
 - 議題 (1) 平成 23 年度北海道立図書館運営計画（案）について
 - (2) その他

✚ 本年度は協議会委員の改選期にあたり、公募により選出された 2 名を含む 10 名の委員が新たに任命されました。任期は平成 22 年 11 月 1 日から平成 24 年 10 月 31 日までの 2 年間で、第 2 回協議会において新委員の顔合わせがなされました。

氏 名	適用区分	備考	氏 名	適用区分	備考
大久保 雅 人	学校教育関係者	継続	河 野 博 光	学識経験者	継続
池 内 みさを	"	新任	下 田 尊 久	"	継続
吉 田 真 弓	社会教育関係者	継続	北 倉 公 彦	"	新任
澤 田 満	"	継続	後 藤 たみよ	" (公募)	新任
天 水 千 鶴	家庭教育関係者	新任	高 田 芳	" "	新任

✚ 当館ホームページの「北海道立図書館協議会」のページでは、会議開催のお知らせを随時掲載するほか、目的及び概要、委員名簿、会議の概要等を掲載しています。

(トップページ>道立図書館について>道立図書館協議会)

(業務部業務課)

「赤とんぼ」、「かがくのとも」復刻版

北海道立図書館が平成 22 年度に収集した図書資料から「赤とんぼ」、「かがくのとも」（ともに復刻版）をご紹介します。

■ 「赤とんぼ」

「子供たちの世界をいつも美しい豊かな読物でいっぱいにしておきたい」という刊行宣言のもとで、大仏次郎や川端康成らが関わって編集された戦後初めての本格的な児童雑誌です。

刊行は約 2 年半という短い期間でしたが、「ビルマの竖琴」（竹山道雄）や「飛ぶ教室」（ケストナー/高橋健二訳）などをはじめ、戦後の児童に関わる文化、文学、教育、音楽などの分野で数多くの名作を残しました。

北海道立図書館では、今回復刻された「赤とんぼ」全 31 冊と、発刊当時の関係者による記録、回想を含む論文集、目録、索引を掲載した別巻を収集しました。

「赤とんぼ」の刊行から 60 年を経て、子どもを巡る環境は大きく変化しました。しかし、その健やかな成長と幸福を願う気持ちはいつの時代も変わらないことを、改めて思い起こさせてくれる貴重な記録となっています。



■ 「かがくのとも」



アポロ宇宙船が月面に到達した昭和 44 年。科学へのあこがれと技術への信頼を背景に創刊された月刊科学絵本「かがくのとも」が平成 22 年に創刊 500 号を迎えたことを記念して刊行された復刻版です。最新の印刷技術により、創刊号から第 50 号までが刊行当時の姿でよみがえりました。

安野光雅、加古里子、堀内誠一、五味太郎などが腕を振ったその誌面は海外でも高く評価され、現在まで延べ 140 点が翻訳出版されています。

かつて「かがくのとも」に親しんだ世代には少しばかりの懐かしさを、そしてこれから手に取る現代の子どもたちには「かがく」の楽しさを伝えられる絵本です。

※ 「赤とんぼ」、「かがくのとも」は館内での閲覧となります。

(奉仕部資料課)

平成 23 年度 事業予定一覧表

月	上 旬	中 旬	下 旬
4			子ども読書の日(23日) こどもの読書週間(4/23~5/12) 北区振第1回理事会・総会(21日、札幌市) あつまれ!森林公園スタンプラリー(4/29~5/5)
5	書庫ツアー(子ども向け)(5日)		道民カレッジ連携講座(医療大学共催) (28日)
6	北海道図書館新任職員研修会(当館)		第1回北海道立図書館協議会 北日図連 北日本図書館大会 (23~24日、秋田市) 道民カレッジ連携講座(23日) 北読進協 総会(札幌市)
7	道民カレッジ連携講座(7日)	北海道図書館中堅職員研修会(当館)	道民カレッジ連携講座(21日)
8	書庫ツアー(4日)		
9	北区振 北海道図書館大会 (1~2日予定、札幌市) 北学図 北海道学校図書館研究大会 十勝大会(9~10日、音更町)		
10	全道図書館研究集会(札幌市)	日図協 全国図書館大会 (13~14日、東京都調布市)	読書週間(10/27~11/9) 文字・活字文化の日(27日) 北日図連 総合・経営部門研究協議会 (仙台市)
11	第2回北海道立図書館協議会 書庫ツアー(3日)	北区振第2回理事会・全道図書館長 会議(札幌市)	
12	北学図 青少年読書感想文全道コンク ール及び北海道指定図書読書感想文 コンクール(4日、札幌市)		
1	北学図 北海道学校図書館研修講座 (10~12日予定、札幌市)	日図協 全国公共図書館研究集会 総合・経営 サービス部門(福岡市)	
2	書庫ツアー(5日)		
3	第3回北海道立図書館協議会		

事業は予定であり、変更することがありますので、ご了承ください。

平成 23 年度 展示予定一覧表

◆ 平成 23 年度展示案内

当館では、1階エントランスホール、中2階北方資料室入口で展示を行なっております。
平成 23 年度は次のとおり計画しております。

月	1階エントランスホール	中2階北方資料室
4月	宙(そら)への旅	大正の広重・吉田初三郎と鳥瞰図の世界
5月		北海道の医療史
6月	森を歩く	北海道にのれん100年 ～道内の会社史～
7月		
8月		
9月	探検・冒険のはなし	海流によって CHISHIMA(千島列島)の記憶から ～日本人のいる風景を探して～
10月		
11月	平家物語	歴史に名を刻んだ異邦人たち ～北海道編～
12月		
平成24年	化学へのいざない	さっぽろ雪まつり
1月		
2月	化学へのいざない	北海道 市のうた 町村のうた
3月		
4月	化学へのいざない	北海道 市のうた 町村のうた

これらのコーナーのほかにも、北方資料室内、閲覧室(窓辺の本棚)、児童コーナー、開架書庫などで随時展示を開催します。毎月の展示につきましては、当館ホームページ「今月の展示」で紹介しています。



当館ホームページのトップページ

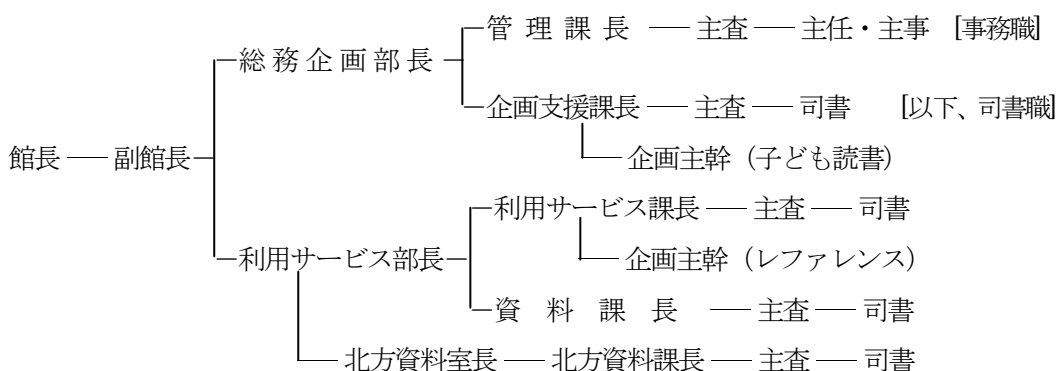
掲 示 板

道立図書館が変わります。

その1 平成23年度6月1日から組織機構が変わります。

これまでの3部体制から2部体制に変わり、事務分掌の明確化と効率化を図ることにより、事務職員が2名減員されます。

新組織は次のとおりです。



その2 平成22年度補正予算により「知の地域づくり事業」を行います。

これは総務省が推し進める住民生活に光をそそぐ交付金活用事業によるもので、約1億5千万円の予算で参考図書・児童図書等の図書及びデジタルライブラリーの整備などが図られます。

道内の図書館・図書室の動き

滝川市立図書館

平成23年11月上旬予定で、滝川市役所2階に移転します。詳細は新年度に決定される予定です。

幌延町公民館図書室

生涯学習センター新設に伴い、その1階に移転します。新施設の開館は本年4月1日です。

住所：幌延町宮園町1番地

電話番号：01632-5-1321

北海道立図書館報 第190号

平成23年3月25日発行

北海道立図書館長 河合 正月

〒069-0834 江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521 (代表)

ダイヤルイン

386-8531 (業務部)

386-8522 (奉仕部)

386-8523 (北方資料部)

FAX 011-386-6906

Eメール：gyoumu@library.pref.hokkaido.jp

HP：http://www.library.pref.hokkaido.jp